

第1回 学校運営協議会 兼 学校関係者評価委員会 兼 校内コンプライアンス委員会 記録

1 日時 令和3年6月8日（火）

午前9時30分から午前11時30分まで

2 場所 沼津視覚特別支援学校 会議室

3 出席者

(1) 学校運営協議員

影山 富士彦 氏 （第五地区西連合会 副会長）

三浦 靖幸 氏 （東部社会教育振興協議会）

後藤 譲治 氏 （特定非営利活動法人ティンクル沼津）

片岡 亮太 氏 （和太鼓奏者・本校卒業生）

AM（PTA会員）欠席

(2) 学校関係者評価委員

SM（PTA会員）

(3) 校内コンプライアンス委員

OY（PTA会員）

(4) 学校職員

校長、教頭、事務長

4 日程

9:30～9:40 あいさつ、日程説明等

9:40～10:10 校内参観

沼津市立第五小の視覚訪問＜手引き歩行＞見学



<幼稚部>



<小学部>

10:10~10:50 協議① 学校経営について

校長より学校経営計画について昨年度からの変更点を重点的に説明

- ・ 観点別評価の3観点を意識した授業について
- ・ 専門性（視覚障害、他の障害、教科）について
- ・ 情報保障を意識することから実践することへ
- ・ コミュニティスクール推進のための地域との共同活動の実施について

今計画されているものは、第五地区ふれあいの集いや商工会議所のマッサージ奉仕など、高等部生が関われるものだけになっている。小中学部が関われるものもないか、意見をいただきたい。

後藤：地域との交流について、ティンクルでは毎年音楽イベントを実施している。沼津ラクーンでチケット1,500~2,000円、地域の方や取引企業の方をお招きしている。お客様への接遇を行い、プレゼントを手渡しするようにしている。マッサージを施術することもある。また、もらうだけでは、という考え方から、チケット売上の10%を、大雨や地震被害にあった地域など、その年に困りごとを抱える団体に寄付している。昨年度はコロナ禍で実施できなかったが、今年度は実施するつもりで計画している。開催の形態は今後の状況次第である。

片岡：自分が生徒として在籍していた頃、地域交流を年3回は行っていたと思う。地域の方に昔のあそびを教えてもらったり、公園にプランターを置かせてもらったりしていた。ただお茶を飲んで話す時間もあり、とても気楽に地域の方と触れあえる機会だった。

校長：そのような場があったとは知らなかった。残念ながらどこかで途切れてしまったのだと思う。ぜひ、何らかの形で関われるようになっていきたい。

三浦：校長や教頭が替わっていくこともあり、地域との交流がどこかで途切れてしまった。そのようなことが起こらないようにすることが、この会の目標の一つだと思う。独自の企画になるかわからないが、地域との関わりを深めて欲しい。そのとき、子どもに

参画意識を持って欲しい。どこまでできるか分からないが、単なる参加ではなく、企画計画から関わり、参画意識を感じられるようになるとうい。

教頭：今日見学してもらった五小との交流は、かなり継続してできている。そのおかげか、昨年度は五小卒の消防士から、視覚障害の避難訓練について研究の話があった。継続することの大切さを感じた。今後も継続できるようにしていきたい。

影山：第五地区は第五中の学区であり、自治会メンバーとしては9,000世帯ほどのコミュニティである。コミュニティの活動として「共生と支え合い」をテーマにしている。イベントとしては、子ども餅つき大会、クリスマスケーキ作り、ノルディックウォーキング（1～2km程歩く）、物作り教室などがある。11月3日には、ふれあいの集いを予定している。これに、高等部が参加してくれる。関われるものがあれば参画して欲しい。

片岡：話は変わるが、2つほどお願いがしたい。

一つ目は支援依頼の権利意識である。一般小から中学部に入ってきた生徒がいると聞いた。そのような児童生徒は、支援依頼することが悪いこと迷惑なことだと思ってしまうことが多い。支援に対し感謝することは大事だが、支援依頼することは権利であり、決して悪いことではない。ためらわず支援依頼できるように指導して欲しい。

二つ目は、筑波大学附属視覚特支で和太鼓指導をしていて思うことがある。身体イメージが弱く、身体の動かし方を知らない児童生徒が多い。なんとかならないものだろうか。

校長：全くもって、おっしゃるとおりである。模倣をしにくいいため、単純に「伸ばす」「曲げる」という動作であっても、言葉で伝えきれないことが多い。体育の教員が、常に悩んでいるポイントでもある。今後も努力していきたい。

教頭：いろいろな意見をありがとうございました。保護者の立場か

ら意見をお願いできるでしょうか。

OY：先生方が3観点や多くのことを意識している、勉強していることが分かった。これまで長く子どもを通わせてきたが、担当する先生方が替わっても、いつも迎えてくれる、子どもを理解しようとしてくれている、という感じがあった。その理由が分かった気がする。通わせていることで、信頼関係ができています。苦手なことにもチャレンジさせてくれている。ありがたい。

SM：OYさんと同様、先生方の考え方が分かった。とてもありがたい。

校長：学校経営計画について、承認していただけるか。

全会一致で承認。

10:50～11:05 協議②

・不祥事根絶に向けた本年度の取組について

教職員心得チェックの結果について（回収率92.1%）

AB合わせて80%以上が32項目中30項目と大部分を占めた。

AB合わせて80%に満たなかった項目は「同僚に関すること」の「21同僚の気になることは声を掛けている」と、「個人情報の取り扱いに関すること」の「29机上もバッグの中も整理整頓を心掛けている。」であった。

片岡：企業コンサルトのとき、同じような心得チェックを実施する場面がある。しかし、実施できている項目について、職員から「やっちはいるが、何のためにやっているかは分からない」という意見を聞いた。どのような意図による心得なのか、研修はしているか。

教頭：常に、ということでは研修できていない。この心得チェックはH27に見直されている。そのときは職員でどのような心得が必要か検討し、確認した。何のための心得なのか、再確認するためにも、内容検討をする時期かもしれない。

・コロナウイルス感染症に対する取組について

校長：昨年度は多くのものを中止したが、コロナとの付き合い方がこの1年で大分分かった。昨年できなかった六星スポーツ Day も、今年は開催することができた。感染対策を継続しながら、今後はできるだけ行事を実施していきたい。

11:05~11:15 学校への期待、要望等

後藤：コロナ禍のため、施設利用者が運動不足になっている。学校の体育館やグラウンドを借りることはできないだろうか。

校長：施設開放として、体育館とグラウンドは貸し出すことができる。ただ、今現在はふじのくにシステムがレベル5であり、施設開放を休止している。状況が落ち着けば貸し出せるので、申請して欲しい。

片岡：自分の世代には、和太鼓という強みがあった。地域に出ても、「和太鼓の子たち」と認識されていたと思う。何でも構わないが、アピールポイントができるとよいと思う。

11:15 閉会